

第1・2学年 算数科学習指導案

児童数 1年2名 2年5名
指導者 川上 沙織

<p>1 単元名 1年「たしざん」</p> <p>2 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none">・1位数と1位数との加法の計算が確実にできる。〔知識及び技能〕・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕・数量に親しみ、算数で学んだことのおよや楽しさを感じながら学ぼうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 <p>3 単元について</p> <p>本単元では、1位数同士の繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。</p> <p>児童はこれまで和が10以下の1位数同士の加法計算や$10+5$、$12+3$等の10以上の繰り上がりのない加法計算を学習してきた。</p> <p>この単元では、$9+4$や$3+9$等の繰り上がりのある加法計算に取り組む。既習の数の見方や計算の意味を活用することで、未習の計算の仕方を既習の整数の計算方法に帰着させて考えていくようにしたい。また、計算の仕方をブロックや図、順序を表す言葉を使って説明する力を身に付けさせていきたい。</p>	<p>1 単元名 2年「さんかくやしかくの形をしらべよう」</p> <p>2 単元の目標</p> <ul style="list-style-type: none">・三角形や四角形、正方形、長方形、直角三角形の意味や性質を理解することができる。〔知識及び技能〕・図形を構成する要素に着目し、構成の仕方を考えるとともに、身の回りのものの形を図形として捉えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕・図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとする。〔学びに向かう力、人間性等〕 <p>3 単元について</p> <p>本単元では、平面図形に進んで関わり、図形についての感覚を豊かにしながら三角形、四角形等の構成要素を捉える。そして、それらの意味や性質を理解し、図形を構成する要素に着目して捉える力を養うとともに、それらを今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。</p> <p>児童はこれまで、箱の形を写し取ったり色板を使った形作りを楽しんだりして、図形に関わる学習に取り組んできた。</p> <p>この単元では、三角形と四角形、直角、長方形と正方形、直角三角形の意味や性質を理解し、図形を弁別したり、特徴を見出したり図形を描いたりする。操作活動を通して、図形に関する用語や意味、性質等を実感をもって理解できるようにしたい。また、学習課題に対する自分の考えをしっかりともち、友達に説明する力を身に付けさせたい。</p>
---	--

4 研修主題との関連

<視点1>考えや自力解決の方法を自分の言葉で表現するための支援の工夫

②自分の考えをもつ場の工夫

自分の考えをもつためには、学習課題を理解し、解決の見通しをもつことが大切であると考えられる。複式学級における学習指導では、教師が直接支援できない間接指導の時間があるため、自力解決のためにもより確実に押さえたい事項である。そこで、自力解決をする前に、前時の課題と同じところや違うところはどこか、何に注目して仲間分けをするかといった問い返しをする。解決の見通しを立てることで、自分の考えをしっかりともつことができると考える。

③自分の考えを表現し、自分の言葉で伝え合うための支援の工夫

自分の考えを自分の言葉で表現することができるように、まずは、ブロックや図形カードを操作して考える時間を設ける。そして、その考えをホワイトボードやノート等にまとめる。既習事項を掲示しておいたり、穴埋め形式のワークシートを用意したりしておくことで、困ったときに必要なものを自分たちで選択して活用できるようにしておく。

<視点2>よりよく関わり学び合い、自己調整し、学びを進めるための学習過程の工夫

①児童が自力解決可能な学習課題や発明

複式学級の学習指導では「ずらし」と「わたり」を計画し、直接指導と間接指導のバランスを考えながら学習活動を設定することが重要である。多様な考えを期待したい半面、間接指導中は、教師が学びを修正することが難しいため、焦点を絞って考えられる学習課題にする。また、新しい知識を教える学習内容の際は、他方の学年は、既習事項を使って自力解決できる学習活動にするなど学習過程を工夫することで、ガイド役が中心となり、児童だけで学習を進めることができると考える。

②主体的に学習を進めるためのガイド役の育成

児童が主体的に授業を進めていくことができるように、実態に合ったガイドマニュアルを作り、活用している。算数科では4月から、1時間の学習の流れを同じパターンにしたり、発表の際のルールを作って学習の約束の定着を図ったりしてきた。また、ガイド役を輪番制にし、いろいろな役割を経験できるようにしてガイド学習に取り組んできた。そうすることで、自分たちだけで学習を進めたり、友達同士で教え合ったりする姿が見られるようになった。本時では、ガイド役になった児童を中心に学習を進めていく際、友達と関わり合いながら学ぶ姿を期待したい。

5 全体計画（10時間）

- 第1次 9 + 4 の計算…4時間
- 第2次 3 + 9 の計算…2時間
- 第3次 計算カード練習…4時間

6 本時の学習（3/10時）

（1）目標

前時までの学習を踏まえ、和が10より大きい数になる加法について「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えることができる。


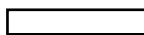

5 全体計画（10時間）

- 第1次 三角形と四角形…3時間
- 第2次 長方形と正方形…5時間
- 第3次 まとめ…2時間

6 本時の学習（2/10時）

（1）目標

三角形、四角形の意味や性質を理解することができる。

(2) 展開				
直接指導 		間接指導 		教師の動き (わたり) 
学習活動 ・予想される児童の反応	指導上の留意点 ◆評価<方法>	指導形態 配時	指導上の留意点 ◆評価<方法>	学習活動 ・予想される児童の反応
1 本時の学習の流れを確認する。		2		1 本時の学習の流れを確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返る。 ・児童が学習を進められるよう、活動の流れを提示する。 				
2 ガイド役の子が中心となり、足し算カードに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド役の子が学習を進められるように、ガイドマニュアルを用意する。 	5 5	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使って仲間分けをし、仲間分けをするときは、何に着目するかが重要であることを確認する。 	2 学習課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・三角の形と四角の形があるね。 ・直線で囲まれてるね。
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の課題と同じところと違うところを明確にする。 ・「10といくつ」という数の見方に着目できるように、前時までの学習内容を掲示物しておく。 		5 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイド役の子が学習を進められるように、ロイロノートにガイドマニュアルを用意する。 ・自分の考えを発表しやすいように、各自ホワイトボードを使うよう助言する。 ・終わった児童から、ホワイトボードを黒板に貼るようガイドマニュアルに位置付けておく。 ・友達の分類を基に、自分の考えを見直すように促す。 ・ホワイトボードに、何に着目して分類したか書けるようにしておく。 	3 ガイド役の子が中心となり、2つの仲間分けの仕方を考え、友達と話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・直線の数に注目すると、3本の直線で囲まれた形と、4本の直線で囲まれた形に分けられます。 ・角の数に注目すると、3つの角がある形と4つの角がある形に分けられます。
8+3のけいさんのしかたをせつめいしよう				
4 ガイド役の子が中心となり、計算の仕方を考え、友達に説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表しやすいように、ホワイトボードやブロック等を使うように伝える。 ・発表の仕方を書いたワークシートを用意しておく。 	13		
<ul style="list-style-type: none"> ◆思考・判断・表現 前時までの学習を踏まえ和が10より大きい数になる加法について「10とあと 				
				<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導を同時に行う。 ・学習状況を見取り、個に応じた支援をする。

	<p>いくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。 <ノート・発言></p>	<p>10 10</p>	<ul style="list-style-type: none"> 穴埋め式のワークシートを使い、大切な用語を確認できるようにする。 	<p>4 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 直線のところを辺、角の点を頂点という。 辺や頂点の数に注目すれば、三角形や四角形が見付けられる。
<p>5 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10 といくつになるように、後ろの数を分けて足すとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り上がりのある計算は、10のまとまりをつくれれば計算できることを確認する。 	<p>5 5</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで答え合わせができるように、答えをロイロノートに入れておく。 早く終わった児童は、困っている児童に教えたり、補充問題に取り組んだりする。 <p>◆知識・技能 三角形、四角形の意味や性質を理解している。 <ノート・観察></p>	<p>5 ガイド役の児童が中心となり、適用問題に取り組む。</p>
<p>6 振り返りと次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 9が8になっても、10のまとまりをつくって計算すればいいことが分かった。 次は、$7 + 4$や$6 + 5$も計算したいな。 		<p>5</p>		<p>6 振り返りと次時の確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 辺や角の数で形の名前が決まってるんだね。 形には、2つの仲間しかないのかな。 他にはどんな形があるのか知りたいな。
<p>(3) 授業の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接指導での学習課題を理解するための手立ては、自分の考えをもつために適切であったか。 間接指導でのロイロノートを使用したガイドマニュアルや掲示物、ワークシートは自力解決するために適切であったか。 				